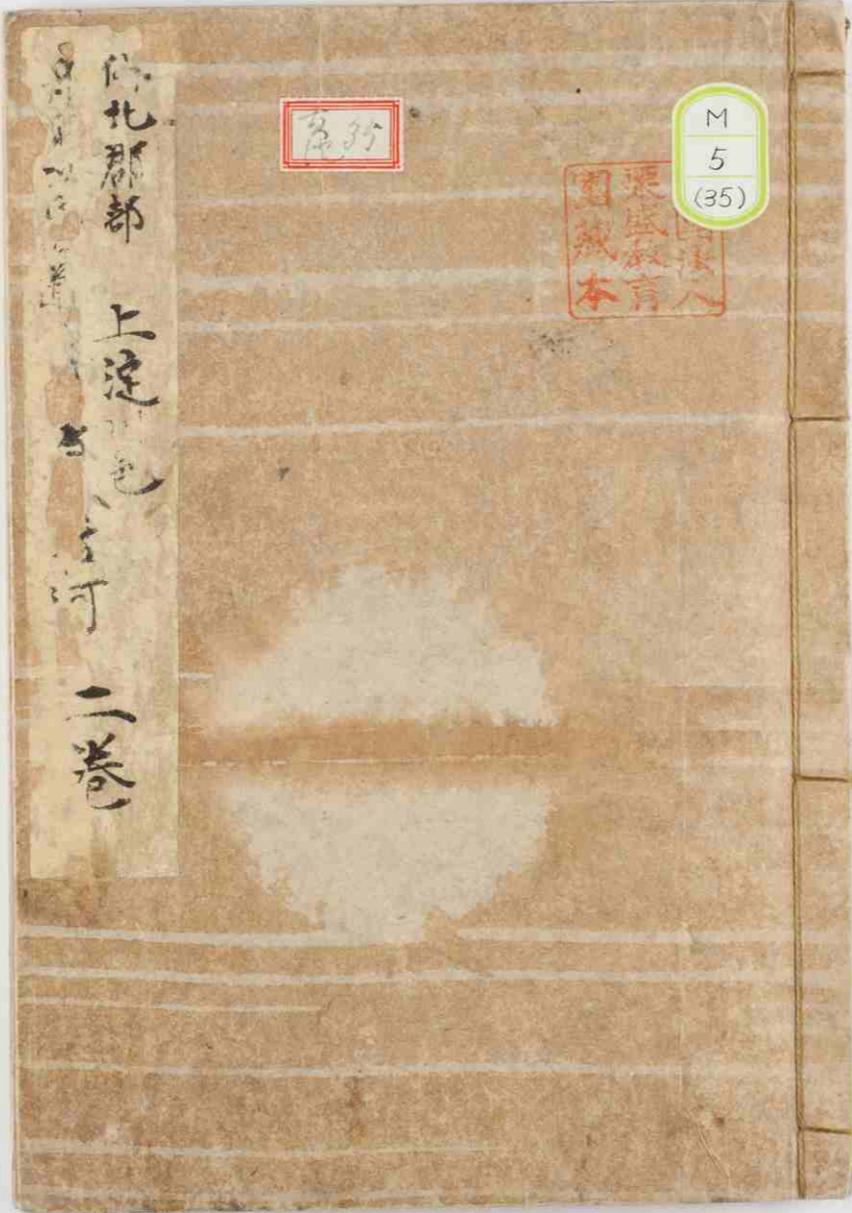


破損あり

以下 汚れあり



日ノ下

仙北郡部

二卷

夏子川	上流川邑
三河三河	中流川邑
保良の神垣	下流川邑
子母の川	小流川邑
宝成の川	福信藤邑

成園法人  
學堂教育  
圖書本

夏目漱石川卷

嘉善  
上淀川邑

郵邑寄郷  
五村の内

戦國法人  
海軍教育  
館蔵本

○上淀川邑

驛路

○里正 和二郎

氏本

此村堺邑の南に隣りて小土橋と村境とをむく。世あり唐松野とを  
 廣野といふ土内を離去せしむ。下をいふ小野寺遠江守義道  
 秋田城介實季義の兄。豊嶋勘重即重氏豊成備中守。本林宮  
 箇崎曲膳重義。泉玄番入道源齋藤倉持監を先づり。騎馬  
 兵五百餘騎。歩者合て二千餘人。舟運川の渡して唐松野に陣を張る。保  
 天正十六年戊子閏五月三日。先づ西野修理亮道俊と松浦  
 先季と巴の別を。鉄炮軍始り。いふ世常。永慶軍記。不審。そある  
 柳邊封て。心より。半より。常を。経て。延寶八帳争を。創。河。勝。○  
 輪田。作。相。笹。堀。長。町。五百。町。間。横。淵。嵐。屋。敷。山。谷。世。に。い。ふ。き。の。の  
 今。此。地。に。移。り。家。居。す。村。方。に。驛。路。と。家。の。境。邑。吏。代。り。事。を。務。む。る。

上淀川





中流河  
至此而止



新中一杉中流河  
中流河



○ 仙尺村 神流川村

○ 十羅刹社あり 志らせの事なり 世社、戸沼上陸分某城の  
祭日、三月十六日、九月十日、別當清水寺。跡子齋、戸沼家鎮守神也

○ 清水寺 修驗流

○ 金海山清水寺修驗者之開祖遊善二世覺應三世敬宥四  
世寛宥五世寶宥六世宥覺七世自宥八世覺宥九世宥譽  
十世現任宥光

○ 太靈寺 寺洞宗

○ 花嶽山太寧寺、禪林、七在內善法寺末院之

○ 上宿村 宇波斯

○ 神明宮 才せり 祭日、三月十六日、別當上流川邑修驗和壽院

○ 下村 斯多

○ 樂師如來社 祭日、三月十日、別當 當村仙人清水寺

○ 山田村

○ 若宮八幡社 祭日、九月十五日、別當 清水寺

○ 田屋村 和壽院

○ 田屋村

○ 神社 此邑の由宗念のより三〇刻し名也 和壽院

田屋村













白龍神社今事手觀音也  
 廣くは神明社大杉とて古木あり  
 白岩村 茂須波社  
 巳渡川流 庚寅の春

村惣家員八十四戸 日人数四百六十三人 日馬員百七拾二足

○中流川邑名産

以和齋の筆室を和齋踏跡原と半眼申て是なるに後五の法師曰大足  
 二足小足八足日月天を白眼行とも横行自在を是而小を和齋の笑て言  
 大足三足鉸子に而足定脚天といひ日月を分ち白眼横行自在をいふ  
 あるを好意て以ておせ色い光を苦小多妖化をいひけりてを夜明又れ大  
 蟹の甲破れ淵を沈死てあり甲の住僧を擲り吐ひ大齋をいひて其蟹を  
 其上よりて蟹の蟹堆とて後や祠を建て鎮まじ整明神を爾今古王を隠し根  
 其隙を食蟹淵とてまじ須波の村の南東の蟹を此定川を海とて蟹を海の魚と



甲須波社 白磐社  
 丙白岩山 丁白岩洞  
 戊白岩村 己神樂殿  
 庚板筆 庚中石  
 辛中村

庚

辛

庚

己

辛

丁

甲

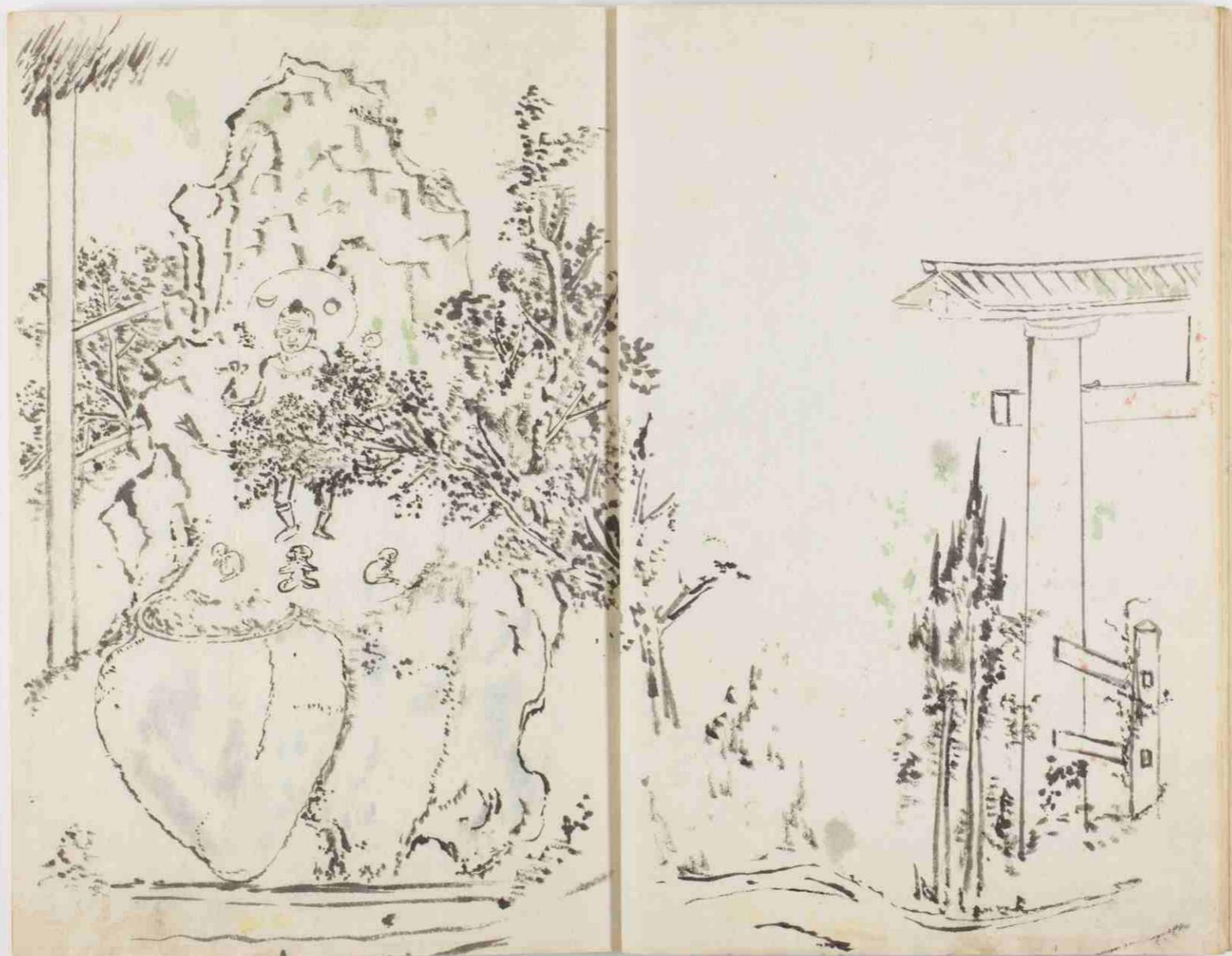
丙

丁

北

庚

己



白石村正  
 佐藤與兵衛家藏  
 龍形硯  
 其色紫里色  
 光澤あり古唐の  
 物なり



保良神

下淀川邑

下淀川  
 五

○下流川邑

○里正。吉喜藏

今氏

○此邑中流川の南に小川の中やして村續々隣邑にまで未のま  
小種福部羅るとの村を近隣にむしき、下流川より名小川を流し多  
あ、下流河入事にも有り、正徳の元あり、流川上が村、流川中の村、流川  
下の村と云つる、上流川中流川下流川と云ふ、其の表は、流川上の  
里氏の古大石物語にせり、此邑の屋敷、古十三下村あり、今下村

○岡田村

○此村中流川の西南方少在り、村畷、岡田山麓に在れ、其の郡邑  
記に、洋波岡田村と云ひ、二村一郷の名とせり、今洋波の殿、岡田高、其の  
言傳のころ、家五軒あり、今二戸あり、阿部三郎と云ふ人の後あり

○不動明生堂、東に、宮地、祭日、月、廿、齋、生、河原村、今吉喜藏

○能登瀨村 支那能

園田より川越(能登瀨)より直登瀨の社ありと云ふ所なる園田なる所  
藤堂と云地名あり修験大覺院居住り此家と云ふ所は伊賀守の  
皇祖の名に因りてを求むるより修験を以て此舎より出ると云ふ事あり

○藥師如來社 祭日四月廿

別當大覺院

○河原村 加波

むし海川の邊り川原と云ふ所也此邑貞享末元禄時此村  
在り今雖樂美地子難して園田より往來通じれ田舎作り住むる  
今專守右衛門此河原在り家古七軒今十二戸あり 能登瀨川越の村

○吉田金剛童子 齋壇 村の上下に祭 庚申、箇内二ノ衆

○中里村 那加

此村より中宿を以て其驛路と云ふ有り今中里より中里と云ふ  
西邑も其地巨とも鈴木兵左衛門家二戸ありて中里にして此一家と云

○母衣社 三代實録に保良家 義家朝臣の保良と云ふ 萬里 鈴木兵左衛門

○西村 延新

○世邑の中里も入浪難と云ふ邑に古九軒今十五戸ありて舊地也

○八幡宮 下流川一村の鎮守也久保田上中城館海江家の領知れ一石の  
祭料あり給 祭日むすも八月廿五日あり今七月廿五日 萬里 鈴木兵左衛門  
そとく此神社 寛治五年の事 源朝臣八幡太郎義家將後三年  
玉澤也此西村よりありての軍を以て夜を以て給り給り  
猿田村の里正武藤伊賀某也と云ふ兵糧乞給りて伊賀守  
家より白米の米五斗と云ふ券給りて之禄幸申也此也其の御券古記



○宮田村 美夜

むろ金雅樂至す雅樂介をいふ人世色五六分茶子佳方後  
河原村小後り事河原村礼子多曲しむゆあふ初さうつりしと事  
とも一戸を短し事えたり、雅樂至後をゆあふ今事ありし。

○熊野社 祭日四月八日 齋至今事合殿の村を統て田と成りぬ

○猿田村

○平鹿郡小猿田村あり猿田郡山内郡猿田五郎の跡猿田はといふ山本郡  
鹿渡枝郷山屋猿田並より山屋茶山夫と云しがその中ゆとて是れ其知  
とて山毛小作の猿田と左田作とすも山屋猿田並びるに世下流川の猿田  
中(山谷)とあり似たり然もあまの世猿田より一より一戸ありて  
武藤伊賀其後世も藤田左の屋敷あり小猿田山本郡山本郡

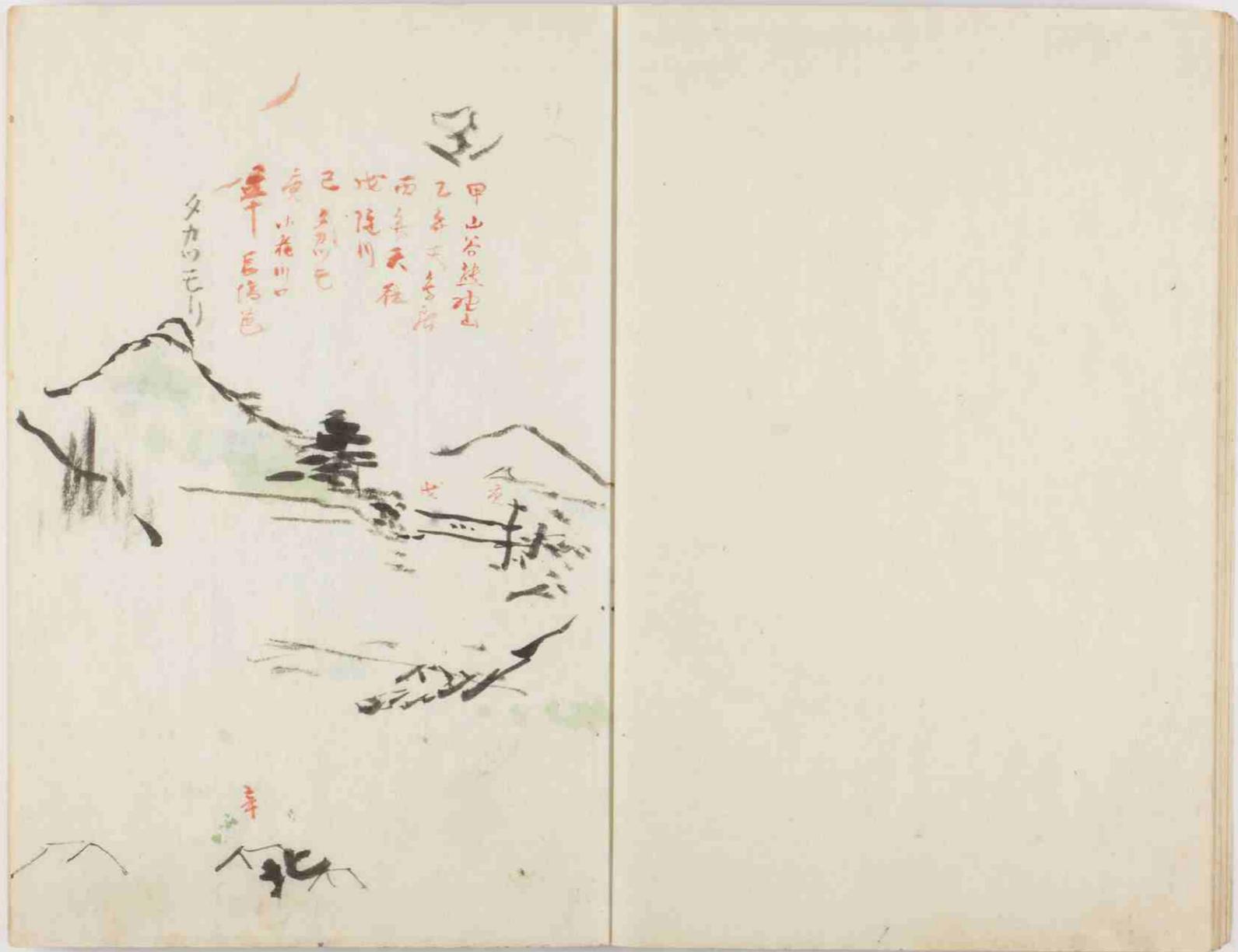
存りそのむ猿田彦大神と名齋なりてその名あり世に亂れ世武藤  
上祖伊賀子二代即左衛門三代門の世より代里長と名なり慶長七年  
御遷邦のときより流江家領知老と名なり世に亂れ世家藏言記録  
内中流川小種若武藤伊賀開地田畑通流川上名子跡  
もろろ若狭と申す田屋守置事なり其後小中流川小種村と  
申定のゆにまよ名ぬと申すて其村百姓あるはよい留まると毎  
かくして化す(級)わらす申す昔長八年十月六日内膳判流川村

三百五拾四石五分申す右納租取し米  
百七拾五石但し申入三百八十俵也此  
古名上り名なり是れ是れ流川上  
昔山長八年  
九月十二日  
流川下村 水原  
流川中村

慶長八年のころ  
もをまよと流川上  
村流川中村流  
川下村と云ひし  
上流川中流川下流川に  
云ひたりける









麻由其母理マユモリの巻

○小種邑

小種邑寄細  
六ヶ村内

六上



○小種邑 里正 加藤小三郎

○小種邑 蠶子コメの浅コシ中ナカ蠶ハ織オリ糸イトの事コト一ヒト度タビし地チ中ナカ小田根コノネの  
事コト也ナリ他郷トナリ太田根オホノネ海ウミ邊ヘの事コト也ナリ多オホシ分クニ種タネ種タネ石イシ  
の事コト也ナリ田タテ信ノリもモ各オノオノにニ其ソノ業ノ種タネ種タネ田タテ業ノ事コト也ナリ村ムラ名ナの事コト也ナリ  
七ナナ箇カ村ムラの枝エダ脚キョウあり土淵ツチノヘ川カハ口グチ小種コノネ上野ウエノ中ナカ新田ニハタ大新田オホニハタ中ナカ津ツの事コト也ナリ

○上野邑 里正 龍正院

○小種コノネの東ヒガシ小コ在アリ世ヨ邑ノチ大沼オホヌマあり東西水ミヅ廣ヒロシ也ナリ六ムサシ七ナナ箇カ中ナカ上野ウエノ小種コノネ  
新田ニハタの向ムカヒ子コ了リる月ツキ未ミ如カ曲カマらズ事コトも與ヨリ子コ記キ下シタ里正ムラノシラ加藤カトウ氏ノ也ナリ  
上野ウエノ子コ栢カシ家ノ林ハヤシ泉イハヒ極キマ不フ百ヒャクと也ナリ注ツひヒつツとト高タカくク

○薬師如来ヤクシ堂ドウ金峯キンポウ山ヤマ新田ニハタ寺テとト祭マツル日ヒ四月シツグツ廿ニ別當ワケアト大覺オホカク院イン  
○飯形イハナガタ明神アカミガミ社ヤシロ祭マツル日ヒ六月ムツキ朔ツキ日ヒ 別當ワケアト龍正リウジヤウ院イン

○熊野權現社

赤尾主加藤十三郎

○彌都波能賣社社來神

赤尾主共三回

世傳師如來と云く善治社と云くを別當義本坊と云くありま  
車流今龍正院の由ありて徳淵龍堂の大見院と云くありと云

○土淵村都知

平鹿郡横手山内郷と同名あり津野主玉の土淵川あり事、その管下  
言保郡邑記云云、其自新河邊郡種津と境林嶺切同郡左幸  
村高野境塚切龜田申利郡之内、大正寺と境、野向塚切、同郡之内、礎  
田村同昔、厚村と境川切と云くあり、世色平津川の太田邑と云くあり  
○華師佛堂面鏡山百泉寺、祭日、八月廿日、別當、龍正院  
○阿孫院佛堂、祭日あり、別當、並、同

○河口村加波

下流川邑山踰の徑あり南方河向土解村乃為流川飲川為  
會のいふより、言保日記、家々貝上軒内、新茶名  
○阿孫院佛堂、祭日あり、別當、龍正院

○龍正院本由

金峯山藥堂別當義本坊を上祖より、五世あり、十五世  
ありて醫師とあり、十六世小當りて義の一字を出家し、止あり  
吉本坊と云くあり、天正の頃、名二世をそれより、還俗の身と  
成り、寛永年中、吉本坊の後、實隆院二世萬藏院と云く  
あり、なり、敏俗の身とて、明暦の年、占り、化言坊と云く、二世別當職  
と云くあり、化言坊退院と云くあり、化言坊退院と云くあり、別當職氏神と云くあり



○中新田村

享保郡邑記 萩新矢嶋領由利郡木賣澤村川境を見えり

○水神社

祭日あり

灰田手 惣四郎

○大新田村

○郡邑記 萩新矢嶋領龜田由利郡少手澤村同杉山田村境  
河原より

○山中明神社

祭日 四月 七日

○別當清水寺

○稻荷社

○麻主與惣左門

○福部羅村

○此邑一種の屬村の如りれども別村れども此福部  
羅村のよりありて美の石と里のより草といふ

○田地

○まきば

○道そひ

○あふでん

○沖田

○高なる

○中谷地

○大沼 東西六七百 南北百五十方向あり。此沼蓮と多くなく花盛  
やて早し初花は夏の花紅やて遠きうききありあも草も多し地も多  
咲く其村を田佃とも呼ぶりまらあやまれどもこの多しあも草  
あも中もその末鮎といふ八龍魚の紅茶鮎といふまきり味いよ  
やく大つ二尺五寸二尺の鮎もまれく捕りうる事ありしや四か  
八か山やて蓮花盛なり中も十冊やまぬあもあも印あり

かほるをくろくきりて花をさすなりとてわらわのしほやけり  
やれりてそのなほにりぬ

ゆきあはれりてそのなほにりぬ

○惣人数百六十六戸 ○同人数四百五十九人 ○同馬数九十疋

里の五ノ字

○福部羅邑

下

三ヶ村

郷

小種村属邑

福部羅村信久里正小種色加藤氏之

○布玖倍良ユフクベラ主盡ユフクホ廬ヨシの義少フシ頭フシ蔓ツタ地チ省語シヤウゴと云々ト云々服部等フクベラ平ヘて服部姓フクベラむム地チ小多コタりリ字ジ音オン小コ多タ地チ名ナ有アル也也初春ハツハルのノ花ハナやヤ節フシ分フ草クサとト似ニ似ニ福フク篋ケツとト草クサのノ様サマをヲ美ミとト言イハふフ慶ウレシもモそのノ草クサ多タしシもモ福部羅フクベラ名ナ不フ得トクとトのノ考カウへヘ享保キヤウボウ郡邑クニ記キ小夫嶋コウヂマ龜田カメノ由利郡ユリノ朽木橋クシキハシ色イロ笹山堤境ササヤマツツミ堀切ホリキ大場オホノヶ崎サキ村ムラよりヨリ金山キナノ津村街道ツムラノ切キ南高城ナノカキ大木オホノ林ハヤシ横長根ヨコナガネよりヨリ由利郡海道ユリノ赤坂アカノよりヨリ上坂ウヘノよりヨリ由利街道ユリノ切キ大嶋領オホノ大澤村オホノ境サカイ云々ト云々

- 神明宮 祭日 九月十六日 齋主 加藤兵左衛門夜詔 清水寺
- 三日月社 祭日 あり 一村一村へへ廟ミヤとト云イハふフ並ナ同ト

用字名目格紙

○六藏澤

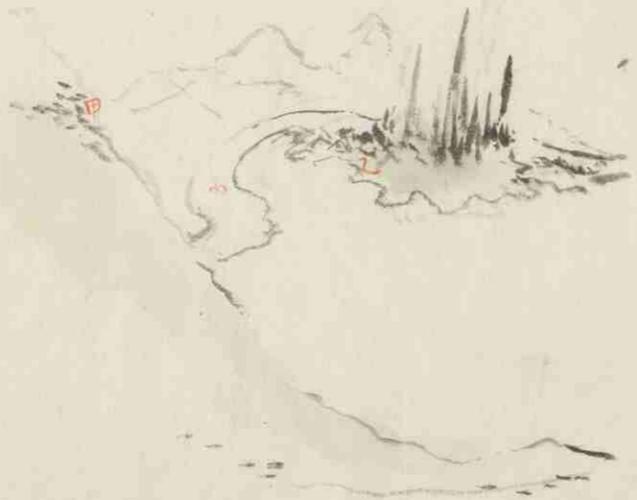
○田地字

○大川

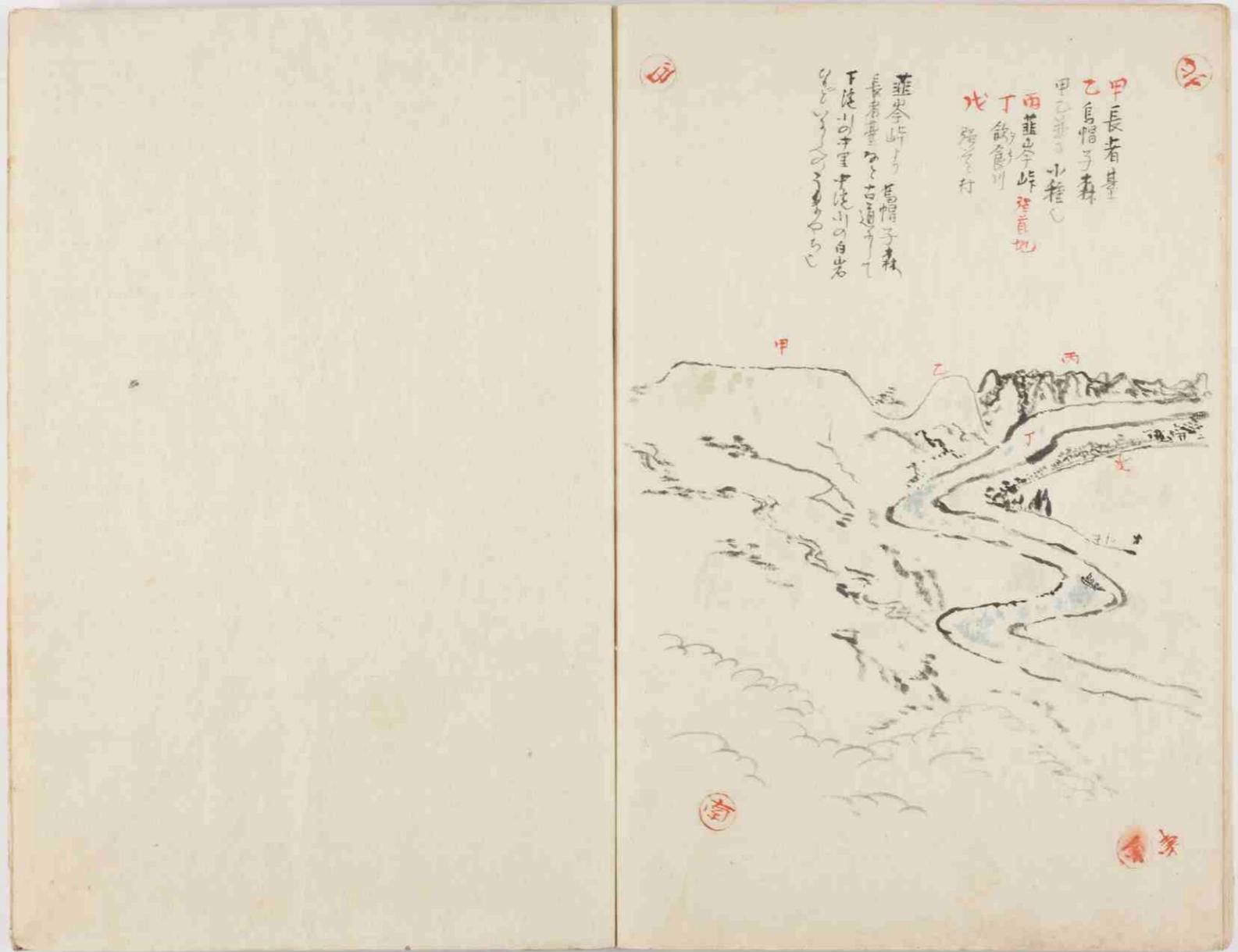
○惣家負九戸  
○同人員廿四人  
○内馬負四疋

文政九年丙戌七月十三日仙北郡小種村 里正加藤小三郎  
境邑屬村六ヶ打  
書

甲 烏帽子杜の林  
種 邑 町  
飲 舎 大 町







菲谷峠より馬帽子森  
 長尾臺へと古通り  
 下流の千里中流川の白石  
 谷と川との境を  
 示す

甲 長者基  
 乙 馬帽子森  
 丙 小種  
 丁 菲谷峠 登道地  
 戊 鶴倉川  
 尾谷村



破損あり

